北原徹教授の略歴および業績

1949年６月９日生

学歴，職歴等

学歴：

1968年３月　福岡県立八女高等学校卒業
1972年３月　一橋大学経済学部卒業
1974年３月　一橋大学経済学研究科理論経済学専攻修士課程修了
1976年３月　一橋大学経済学研究科理論経済学専攻博士課程中途退学

学位：

1974年３月　経済学修士（一橋大学）

職歴：

1976年４月　高知大学文理学部専任講師（～78年３月）
1978年４月　高知大学人文学部助教授（～84年３月）
1984年４月　東京学芸大学教育学部助教授（～95年３月）
1995年４月　東京学芸大学教育学部教授（～99年３月）
1999年４月　立教大学経済学部教授（～2015年３月）
2005年４月　立教大学経済学部会計ファイナンス学科長（～07年３月）

学　会　等

1976年４月　理論計量経済学会会員（～2014年）
1984年４月　金融学会会員（現在に至る）
1999年４月　証券経済学会会員（現在に至る）
2000年４月　ファイナンス学会会員（～2014年）
2007年４月　信用理論研究学会会員（現在に至る）

研究業績

共著：

１.『経済学・入門』宝島社 1989年12月
２.『経済動態と市場理論的基礎』日本経済評論社 1992年６月
３.『国際化する日本金融』時潮社 1992年10月
４.『金融脆弱性と不安定性』日本経済評論社 1995年２月
５.『ベーシック証券市場論』同文館 2004年４月
６. *Keynes and Modern Economics*, Routledge 2013年

論文：

１.「金需要と貨幣の価値」『一橋研究』第27号 1974年７月
２.「不安定性原理について (1)」『高知大学学術研究報告』第25巻社会科学第８号 1977年３月
３.「不安定性原理について (2)」『海南経済学』第５号 1977年３月
４.「大規模経済における株主一致性」『高知論叢』第12号 1981年11月
５.「株主―労働者共同支配企業の借入金依存について」『高知論叢』第15号 1982年11月
６.「自己資本比率とマクロ経済均衡―成長率内生化ケース―」『高知論叢』第17号 1983年７月
７.「ベンチャーキャピタルと金融仲介」『高知論叢』第19号1984年３月
８.「自己資本比率とマクロ経済均衡―成長率外生化ケース―」『高知論叢』第20号 1984年７月
９.「再生産と貨幣の循環的流通」『東京学芸大学紀要』第３部門社会科学第39集 1987年12月
10.「貨幣の循環的流通の構造について」『東京学芸大学紀要』第３部門社会科学第40集 1988年12月
11.「貨幣供給の内生性と金利決定のメカニズム」『東京学芸大学紀要』第３部門社会科学第42集 1991年１月
12.「バブルと銀行行動」『東京学芸大学紀要』第３部門社会科学第46集 1995年１月
13.「金融システム危機，内生的貨幣供給，そして信用貨幣システム」『東京学芸大学紀要』第３部門社会科学第48集 1997年１月
14.「内生的貨幣供給と金融危機の三段階」『金融構造研究』第20号 1998年５月
15.「投資信託と金融システム」『東京学芸大学紀要』第３部門社会科学第50集 1999年２月
16.「証券化と資産変換」『証券経済学会年報』第37号 2002年５月

17.「ストラクチャード・ファイナンスと証券化の展開」『立教経済学研究』第56巻第１号 2002年６月
18.「量的緩和政策と現代信用貨幣経済」『武蔵大学論集』第50巻第３号 2003年２月
19.「証券化における資産担保とマネジメントの裁量性」『立教経済学研究』第58巻第３号 2005年１月
20.「アメリカの不動産証券化と生命保険会社」『高知論叢』第85号 2006年３月
21.「金融システムの市場化について」『立教経済学研究』第60巻第３号 2007年１月
22.「金融システムの市場化：アメリカと日本」『月刊資本市場』No. 262 2007年６月
23.「証券化・市場化と現代金融」『信用理論研究』第25号 2007年12月
24.「アメリカにおける家計の資産保有増大とキャピタルゲイン」『立教経済学研究』第62巻第２号 2008年10月
25.「サブプライム金融危機と証券化のリスク分担機能」『証券経済学会年報』第45号 2010年７月
26.「欧州銀行とシャドーバンキング」『SFJ 金融・資本市場研究』第２号 2010年10月
27.「シャドーバンキングと満期変換」『立教経済学研究』第65巻第３号 2012年１月
28.「ポスト金融危機の米国金融と過剰貨幣資本」『信用理論研究』第33号 2015年５月

学会報告：

１.「証券化と金融仲介コスト」日本金融学会 2000年５月
２.「証券化と資産変換」証券経済学会 2001年６月
３.「証券化・市場化と現代金融」信用理論研究学会 2006年９月
４.「サブプライム金融危機と証券化のリスク分担機能」証券経済学会 2009年６月
５.「証券化の功罪」証券経済学会 2009年10月
６.「金融システムの市場化とサブプライム金融危機」証券経済学会 2010年６月
７.「シャドーバンキング・システムと満期変換」証券経済学会 2011年６月
８.「ポスト金融危機の米国金融と過剰貨幣資本」信用理論研究学会 2014年10月

その他：

ａ．翻訳

１.「EU 銀行業部門の改革に関する最終報告書―リーカネン報告―」『経済学論纂』(中央大学経済研究会) 第55巻第１号 2014年４月
２.『ケインズ全集21巻：世界恐慌と英米における諸政策』東洋経済新報社 2015年５月

ｂ．書評

１．守山昭男『銀行組織の理論』『証券経済研究』第１号 1996年５月
２．M. アグリエッタ『成長に反する金融システム』『証券経済研究』第15号 1998年９月
３．建部正義『貨幣・金融論の現代的課題』『金融経済研究』第15号 1998年10月
４．向壽一『マネタリー・エコノミクス』『金融経済研究』第25号 2007年10月
５．岡本悳也・楊枝嗣朗『なぜドル本位制は終わらないのか』『証券経済研究』第77号 2012年３月

ｃ．寄稿
１．「研究生活を振り返って」『立教経済学論叢』第80号 2015年２月